

## 東北地方太平洋沖地震の被災地の方々へ

### バングラデシュの子供たちからの手紙 掲載のお願い



2011.3.31

代表者名 四谷 圭美

連絡先：090-7207-1456

tamami07212000@yahoo.co.jp

突然のご連絡、また書面でのご連絡となり大変失礼致します。

私、東京都で会社員をしております四谷圭美(よつやたまみ)と申します。この度は、先日訪れたバングラデシュの子供たちから、日本の皆様への手紙を預かって参りましたので、ぜひとも被災地の皆様、また被災地以外にお住まいの方々にも世界中から、自分の国のように日本を想ってくれている人がいることを届けたいと思い、筆をとらせて頂きました。私たちでは広められる範囲に限りがあり、ぜひメディアの皆様のお力添えを頂きたくご連絡させて頂いた次第でございます。



このような状況下の元、お忙しい中不躰なお願いではございますが、何卒お取り計らいの程どうぞよろしくお願い致します。ご質問事項等ございましたら、お気軽に下記連絡先までお問い合わせ下さいませ。当書面内の文章、画像等、自由にご使用頂けましたら幸いです。その他の手紙、画像もご用意がございます。お気軽にお問合せ下さいませ。

#### 手紙について

バングラデシュの教育現場を視察する為に、学校を訪問した時のこと。(学校の詳細は下記『学校について』をご覧ください。) 元々、国風として親日が強く、外国人が珍しいバングラデシュでは、どこに行っても歓迎色が強い印象でしたが、私たちが一番驚いたのはクラス8(12歳~)の学生たちが歓迎の言葉の後に『今回の震災に心を痛めています。』と言ってくれたことでした。まずは、12歳の子供たちが外国で起こった震災に関心を持っていてくれた事に驚きました。日本の12歳前後の子供たちが、どれほど外国のニュースに関心を持ち自分の意見を述べられるのでしょうか。



そして続けて「遠い私たちは何もできずにごめんなさい。だけど、日本の皆さんと同じように心を痛めています。一日も早い復興を心から祈っています。」と言ってくれました。どうかしてこの気持ちを、日本の皆様に届けたいと思い、校長先生に相談したところクラス9(13歳~)の子供たちが手紙を書いてくれる事になり、

私たちがその手紙を預かって参りました。

手紙は全部で26枚あります。ベンガル語と勉強中の英語で書いて来ています。ベンガル語=HIS、英語=私の訳となりますが、次ページにていくつかご紹介させて頂きます。

### ユーワンスワイマルマくん

3月11日の津波が日本を襲ったことをテレビで知りました。沢山のビルや沢山の人の命など沢山の貴重なものが失われたと聞きました。私達はとても悲しいです。私も、知ってからずっと心が痛いです。だけど、必ず太陽は昇ると信じています。日本は最初に太陽が昇る国だから。日本人は、いつも僕達に支援をしてくれました。僕は日本が大・大・大・大好きです！



### シャイシャイAマルマちゃん

私は日本が大好きです。(震災のせいで)私はとても心が痛いです。なぜならば、私が日本を支援したくても、それができないからです。

### シャインくん

日本はアジアの中で最初に太陽が昇る(と言われる)国です。日本に津波があったので心がとても痛みます。日本はいろいろな国を助けています。日本で津波がありましたが、私たちは何も助けてあげられなくてごめんなさい。頑張ってください！日本の人たちをととても尊敬しています。



### キャウシングマルマちゃん

日本は偉大な国だと思います。日本人は親切で、礼儀正しくて大好きです。日本が好きで日本の本をよく読みます。だから、津波のことを聞いた時は、とてもショックを受け悲しさでいっぱいです。日本を応援しています。

### アシュラフル・マフムードさん

(学生ではなく、ツアー主催 HIS ダッカ支店のバングラデシュ人の方です。学生からの手紙の翻訳をお願いしたところ、ぜひ僕も！とメッセージを頂きました。)

今回の震災でとても心が痛いです。私の国は、被害を救うためにどれほどの支援ができるかわかりませんが、バングラデシュの人々は日本の被害を受けた人々と同じ心でいれると信じています。そして、私は日本が大好きです。この被害を少しでも早く回復できるよう心から祈っています。

他にも、今回訪れた「株式会社マザーハウス」の現地スタッフも大変心配して下さっており、下記サイト内にメッセージをアップしてくれています。

URL : <http://www.mother-house.jp/>

また、バングラデシュの工場の工員の方達は、「何か出来ることはないか。」と話し合い、彼らの1日分のお給料を全額寄付してくれました。「僕達のお給料では、大した額にはならないかもしれないけれど、少しでも役に立てれば」と言ってくれた彼らの温かさに胸が熱くなりました。



## ツアーについて

日本を世界最大級の地震・津波が襲った『東北地方太平洋沖地震』から1週間後の3月18日、私たちツアー参加者5名(石川篤史、鈴木沙絵、中谷芳文、四谷圭美、四谷美里)スタッフ3名の計8名は、自国へ帰国する外国人で溢れる成田空港から、バングラデシュに発ちました。

ツアーの目的は“途上国の可能性を知る”ためのスタディツアーでした。主な訪問先は、スラムや学校、農村プロジェクトの視察、日系企業(株式会社マザーハウス)の工場見学等です。正直、私は日本がこのような状況の中、参加すべきか大変悩みましたが、家族と会社の方々の後押しもあり参加することにしました。

今は、このような時だからこそ行って良かったと思っています。バングラデシュでは、訪れる先々で、震災のことを心配して声を掛けてくれ、日本人と同じように心を痛めてくれていました。『何かできることはないか。』と話しかけてくれるたびに、心が熱く涙が溢れそうでした。

## 学校について

今回訪問したのは『Jyoti Vidya Niketon』という日本でいう幼稚園生～中学生の子供たちが通う学校です。通っている子供たちは裕福とは言えない家庭で育ち、援助をもらいながら何とか学校に通えています。家の近くに学校がないため、両親の元を止む無く離れ、寮暮らしで頑張っている学生も沢山います。寮はいつでも満室で、ぎゅうぎゅうに詰めら



れたベッドの中、生活しています。それでも、『学校に通えているだけ、私たちは幸せ』だと言います。

この先の(日本で言う)高校への進学率は、国からの援助額が減るため43%まで落ち込みます。(バングラデシュを知るための60章：明石書店より) それでも私が先！僕が先！と夢を語り、『勉強が大好き』と言っていた子供たちが印象的でした。この学校も日本の援助によって建設されました。



学校 URL:

### 連絡先

名前: 四谷 圭美 (よつや たまみ)

住所: 東京都多摩市愛宕 1-3-1-102

電話番号: 090-7207-1456 (9-12 時 13-17 時は勤務中となるため、電話をとれません。留守電に入れて頂けたら、折り返しのご連絡を申し上げます。)

メール : PC [tamami07212000@yahoo.co.jp](mailto:tamami07212000@yahoo.co.jp)

Mobil [all4you@i.softbank.jp](mailto:all4you@i.softbank.jp)

以上でございます。

ご不明点、ご質問事項等ございましたら、お気軽にご連絡を頂戴できましたら幸いです。何卒よろしくお願い申し上げます。